



令和2年9月

# 敦賀港の概要

# 敦賀港の位置

## 日本海側 日本のまんなか 敦賀港

若狭湾に位置し  
東は越前海岸、西は敦賀半島に挟まれた  
湾の最奥部に位置する港



## 太平洋側に最も近い 日本海側港湾

関西・中京圏を背後に抱えた  
日本海側の玄関口



# 各地から敦賀港までの距離



\* 高速道利用 県調べ

## 各地から敦賀港への距離

名古屋市～敦賀港  
約130km 約90分

大阪市～敦賀港  
約170km 約150分

大垣市～敦賀港  
約80km 約60分

彦根市～敦賀港  
約60km 約50分

# 進む広域道路網の整備

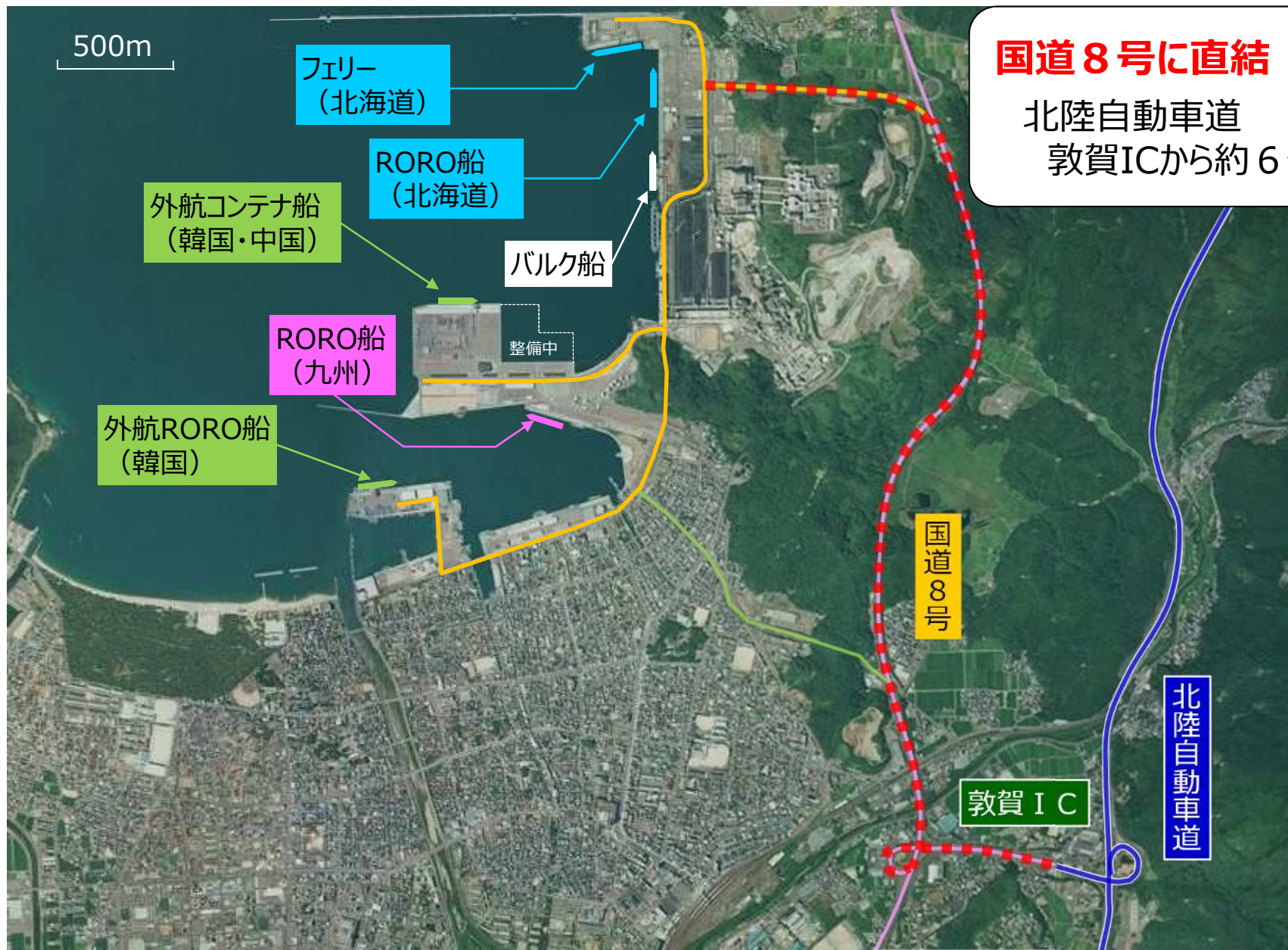
## 広域道路ネットワークで結ばれる敦賀港

舞鶴若狭自動車道や中部縦貫自動車道により、敦賀港と関西圏・中京圏が複数の輸送ルートで結ばれ、大規模災害時の代替性が確保される。





# 広域道路網とのアクセス



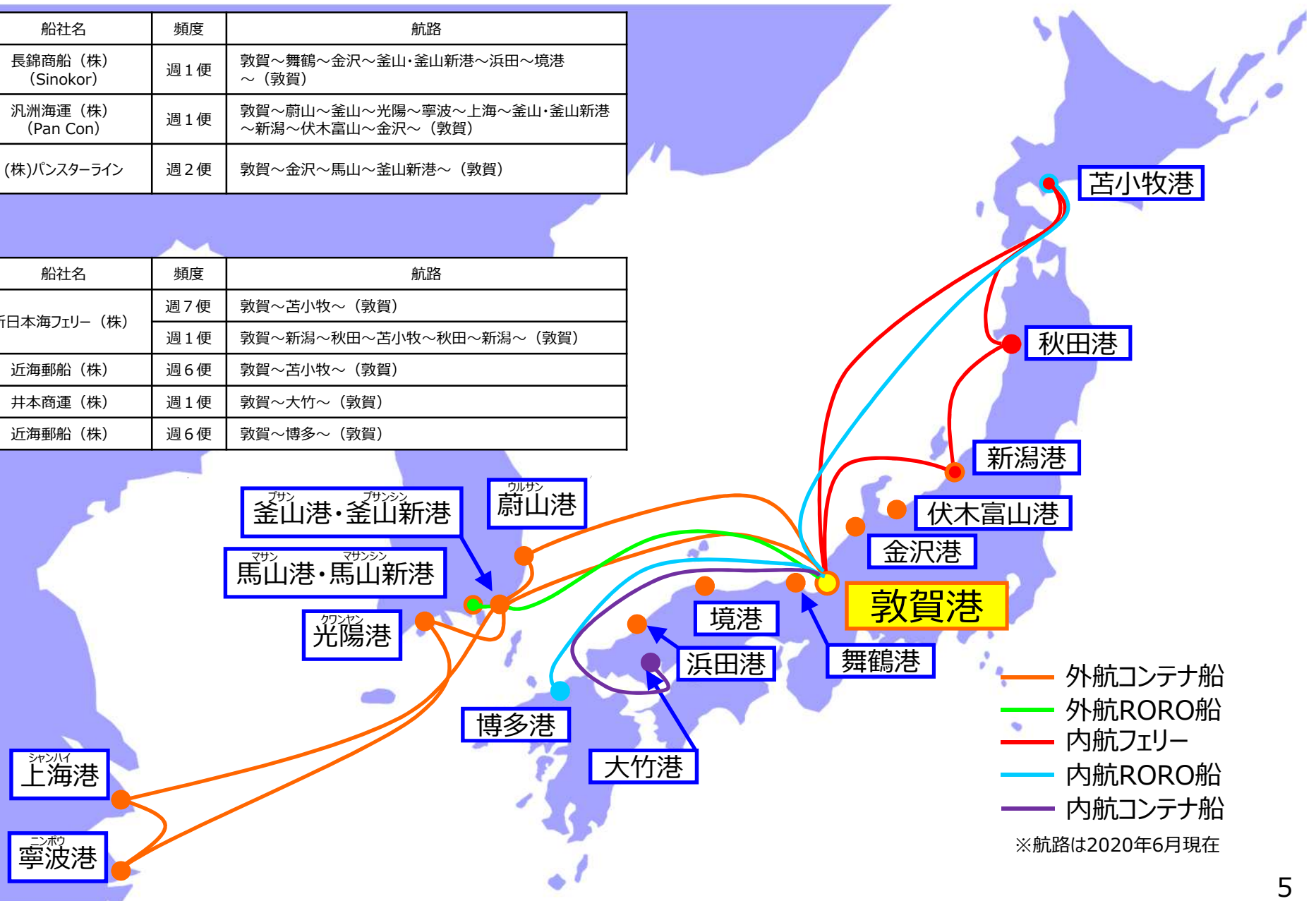
# 敦賀港の定期航路

## 国際航路

航路名	船社名	頻度	航路
韓国航路 (コンテナ船)	長錦商船 (株) (Sinokor)	週 1 便	敦賀～舞鶴～金沢～釜山・釜山新港～浜田～境港 ～ (敦賀)
韓国・中国航路 (コンテナ船)	汎洲海運 (株) (Pan Con)	週 1 便	敦賀～蔚山～釜山～光陽～寧波～上海～釜山・釜山新港 ～新潟～伏木富山～金沢～ (敦賀)
韓国航路 (RORO船)	(株)パンスターライン	週 2 便	敦賀～金沢～馬山～釜山新港～ (敦賀)

## 国内航路

航路名	船社名	頻度	航路
北海道航路	新日本海フェリー (株)	週 7 便	敦賀～苫小牧～ (敦賀)
		週 1 便	敦賀～新潟～秋田～苫小牧～秋田～新潟～ (敦賀)
	近海郵船 (株)	週 6 便	敦賀～苫小牧～ (敦賀)
瀬戸内海航路	井本商運 (株)	週 1 便	敦賀～大竹～ (敦賀)
九州航路	近海郵船 (株)	週 6 便	敦賀～博多～ (敦賀)



# 内航定期航路

近海郵船(株)

- ・敦賀—博多 週6便  
「なのつ」「とかち」



近海郵船(株)

- ・敦賀—苫小牧 週6便  
「ひだか」「つるが」「ほくと」



新日本海フェリー(株)

- ・敦賀—苫小牧東 毎日運航  
「すずらん」「すいせん」
- ・敦賀—新潟—  
秋田—苫小牧東 週1便  
「らいらっく」「ゆうかり」



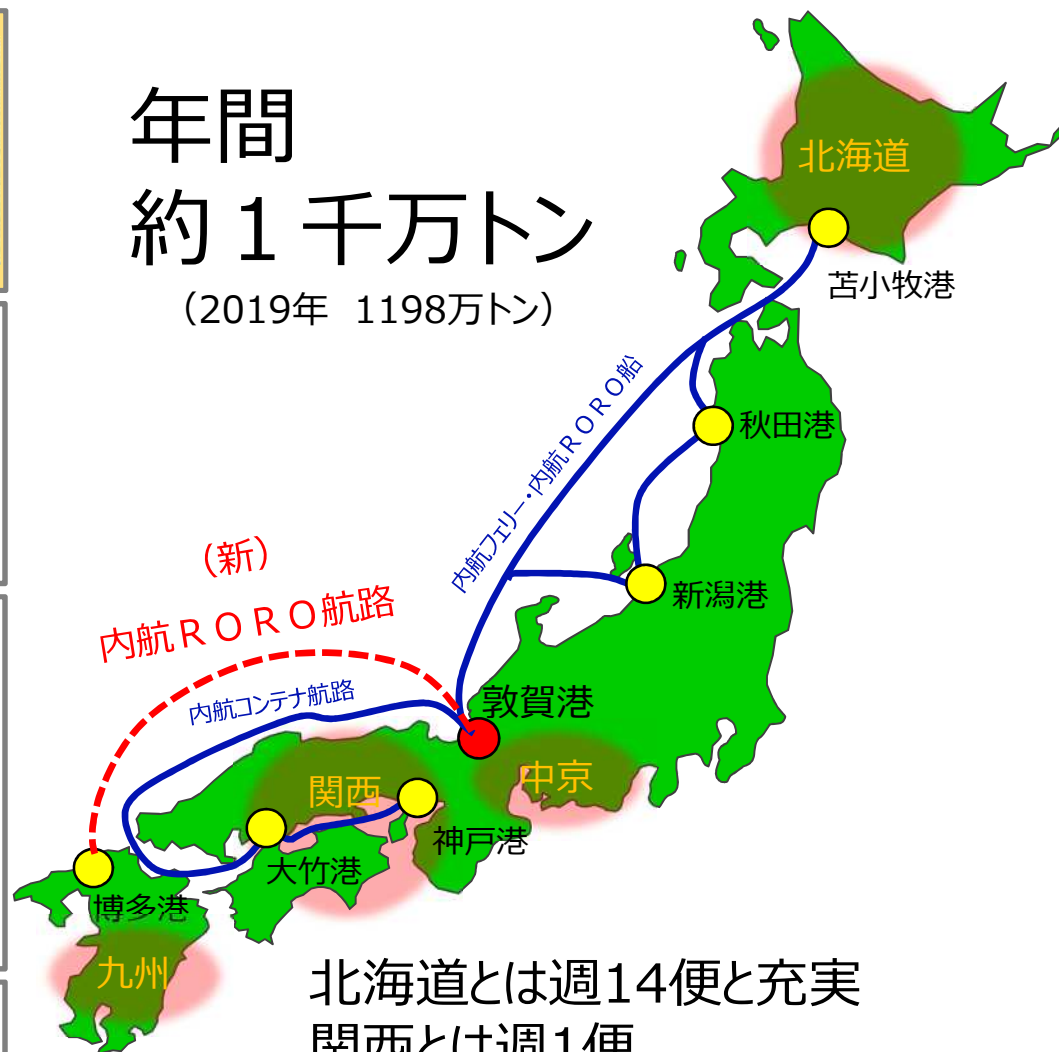
井本商運(株)

- ・敦賀—大竹—神戸  
週1便  
「みかげ」



## 年間 約1千万トン

(2019年 1198万トン)



北海道とは週14便と充実  
関西とは週1便

**2019年から九州航路も開設  
週6便化**



# 外航定期航路

## 長錦商船(株)

平成19年  
6月就航

**機動力活かしたサービス**

(PROTEUS)

韓国航路 週1便

釜山(日・月) ~ 敦賀(水) ~ 釜山・釜山新港(日・月)

(問い合わせ先)

(株)シノコー成本 (日本総代理店)

東京 03 (6278) 6040

大阪 06 (6253) 7660

**ロシア、中国、東南アジア向けサ  
ービスあり**



## 汎洲海運(株)

平成24年  
11月就航

**中国へ日本ラストポート**

(PANCON SUNSHINE/PANCON VICTORY)

韓国・中国航路 週1便

上海(水/木) ~ 釜山・釜山新港(日) ~ 敦賀(金) ~ 蔚山(土) ~  
釜山(土) ~ 光陽(月) ~ 寧波(火/水) ~ 上海(水/木)

(問い合わせ先)

アジアカーゴサービス(株)

(日本総代理店)

東京 050 (5578) 9460

大阪 050 (5578) 9464



## (株)パンスターライン

平成22年  
7月就航

**スピードのRORO船**

(SANSTAR DREAM)

韓国航路 週2便

釜山新港(日) ~ 敦賀(月) ~ 馬山(水) ~ 釜山新港(水)

釜山新港(水) ~ 敦賀(木) ~ 馬山(土) ~ 釜山新港(日)

(問い合わせ先)

(株)パンスターライン (日本総代理店)

東京 03 (3544) 5123

大阪 06 (6267) 9778

**早くて安全、あらゆるタイプの貨物  
に対応。釜山新港から世界各国へ  
トランシップ**





# 日本海側の広域防災拠点

- ・ 定期航路を有していることから大規模災害時の救援・支援に利用された
- ・ 被災地への人員・物資の早期派遣が可能となり、速やかな応急・復旧につながる

H28 熊本地震



陸上自衛隊（北海道）が敦賀港を經由して被災地へ

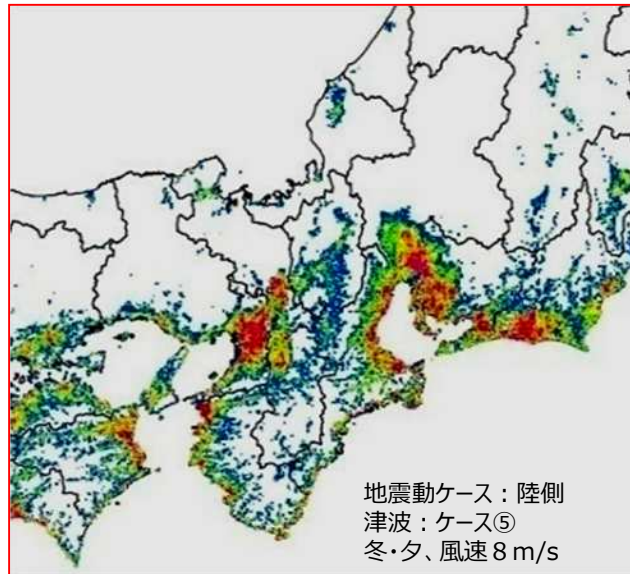
H30 北海道胆振東部地震



中部地整TEC-FORCEが敦賀港を經由して被災地へ

# 太平洋側大規模震災時の代替・補完機能

南海トラフの巨大地震による  
家屋被害予測図



H24.8.29  
内閣府発表

南海トラフ沿いで起きる地震の  
新たな長期評価



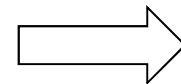
H25.5.24報告  
文部科学省地震調査研究推進本部

東北大震災時に  
日本海側港湾が果たした役割



H25.3.8報告  
国交省北陸地方整備局  
北陸地域国際物流戦略チーム

- ・災害に備えた事前準備体制の構築
- ・被害を最小限にする物流機能の維持
- ・被災港の定期航路の一時受け入れ



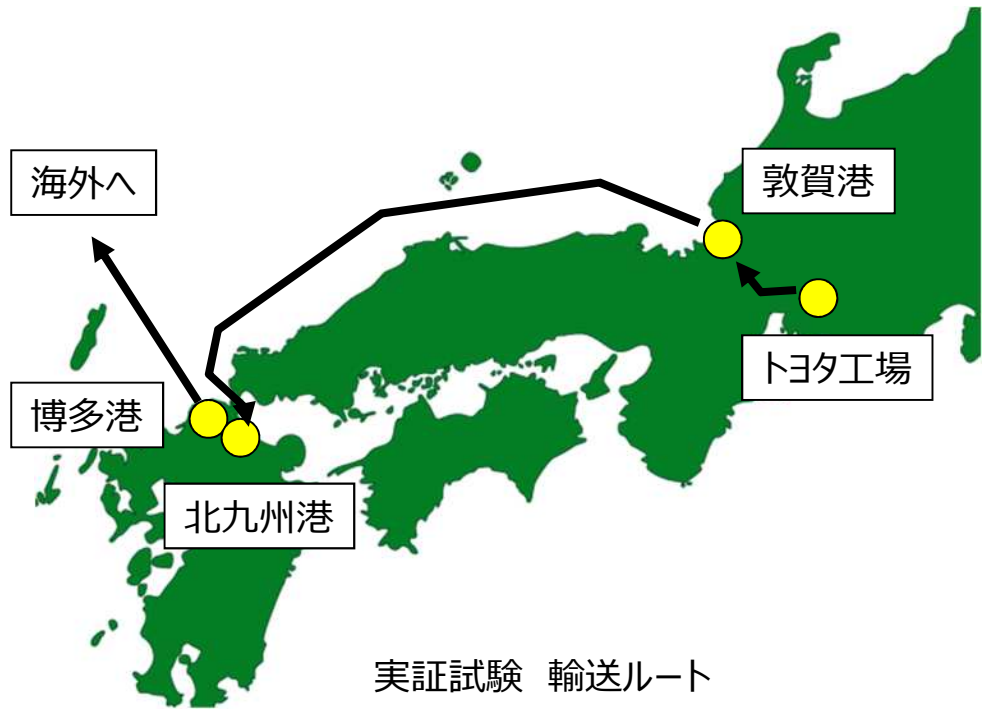
大規模港の代替・補完港として、  
平時より日本海側港湾の利用が必要



# BCPの観点からの活用事例



平成29年10月、トヨタ自動車が南海トラフ巨大地震などで太平洋側港湾が被災した際の代替輸送ルート確保のため、敦賀港で実証試験を行った。



# クルーズ客船の寄港

- ・大型外航クルーズ客船「ダイヤモンド・プリンセス」(乗客定員2,674人)が平成29年9月の初寄港以来、これまでに4回寄港している。
- ・乗船客による飲食代やツアー代を含めた経済効果は、4回寄港で約1.6億円と試算



「クルーズ船見送り隊」が寄港を盛り上げる!



ダイヤモンド・プリンセス船内にて(9月2日)  
(写真右から2番目 洲上敦賀市長)



平成30年 クルーズ船実績



赤レンガ倉庫



ジオラマ館



人道の港敦賀ムゼウム

クルーズ船乗客で賑わう人道の港敦賀ムゼウムと敦賀赤レンガ倉庫 (H29年10月14日)



# 敦賀港の取扱貨物量

敦賀港総取扱貨物量は1,715万トン 全コンテナ取扱個数は94,789TEU

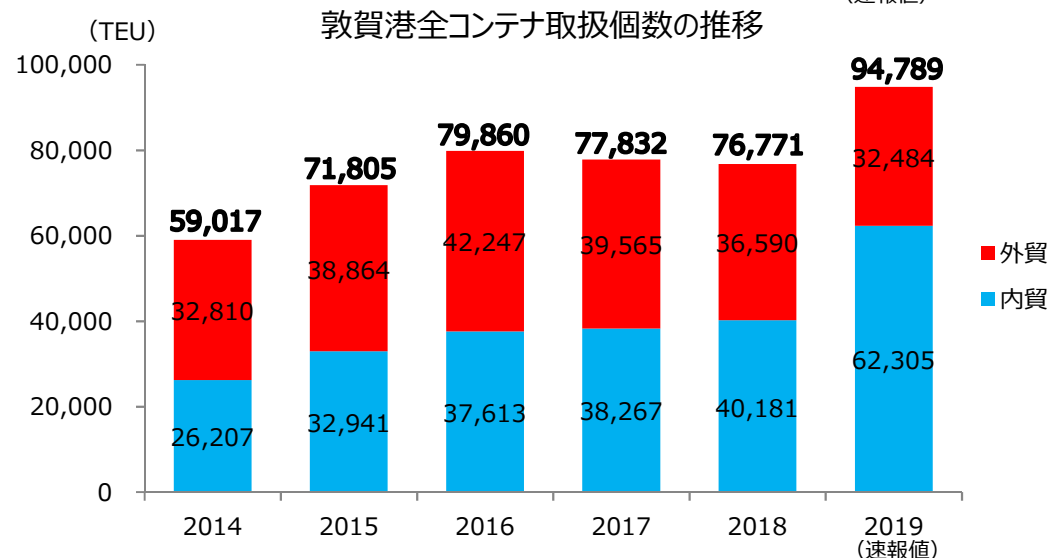
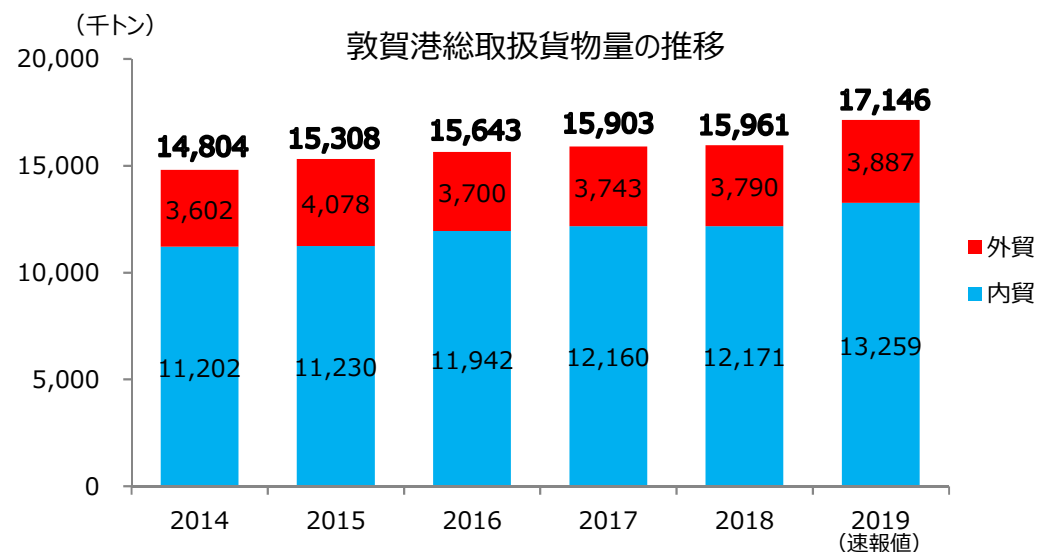
**本州日本海側第2位の取扱量**

本州日本海側港湾 総取扱貨物量ベスト5 (2019年)

順位	港湾名	貨物量
1	新潟港	3,169万トン
2	<b>敦賀港</b>	<b>1,715万トン</b>
3	舞鶴港	1,187万トン
4	秋田港	707万トン
5	伏木富山港	674万トン

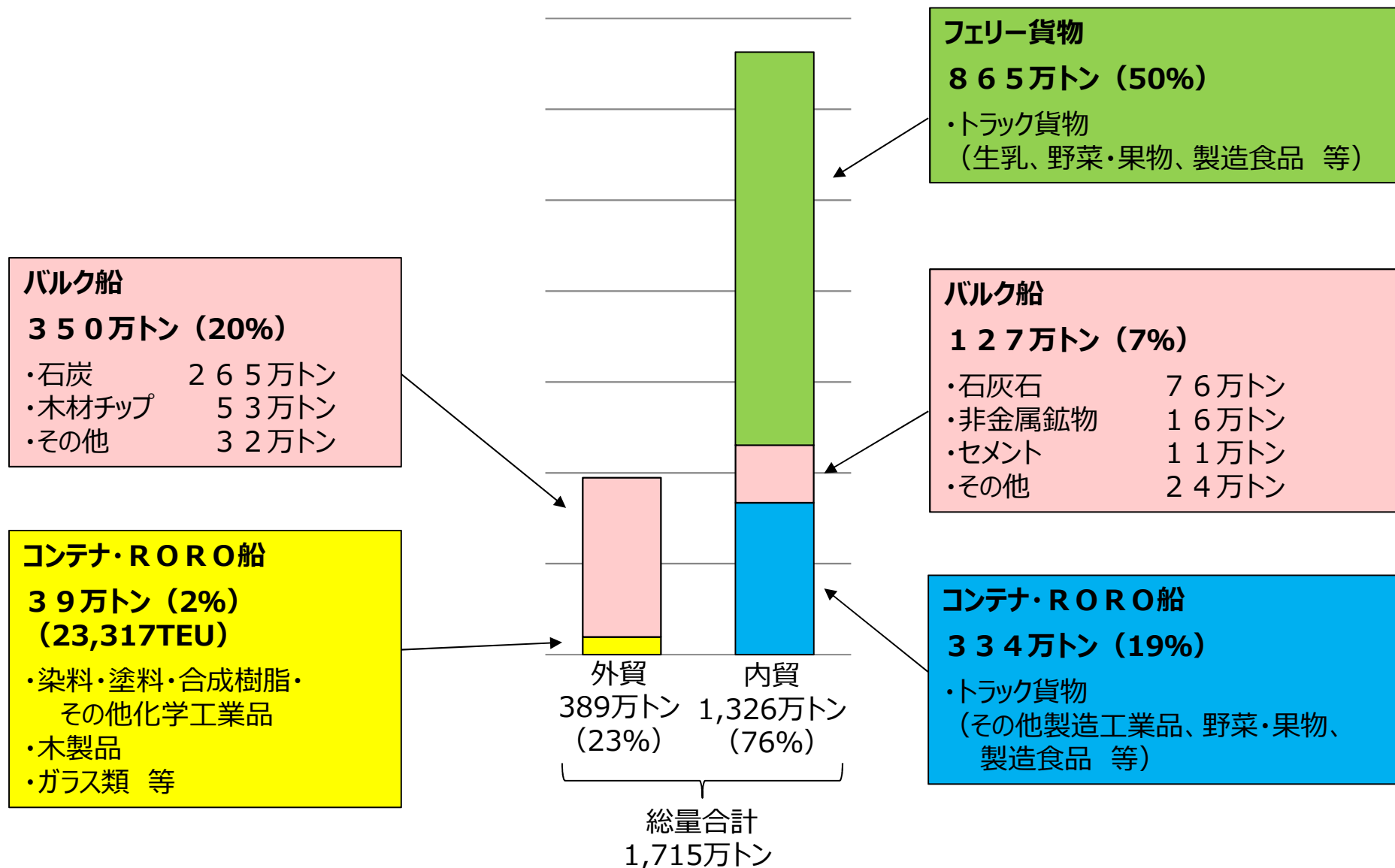
本州日本海側港湾 全コンテナ取扱個数ベスト5 (2019年)

順位	港湾名	取扱個数
1	新潟港	239,871TEU
2	<b>敦賀港</b>	<b>94,789TEU</b>
3	伏木富山港	75,529TEU
4	秋田港	75,047TEU
5	金沢港	71,716TEU



# 敦賀港の取扱貨物量（内訳）

敦賀港貨物取扱量（2019年 速報値）

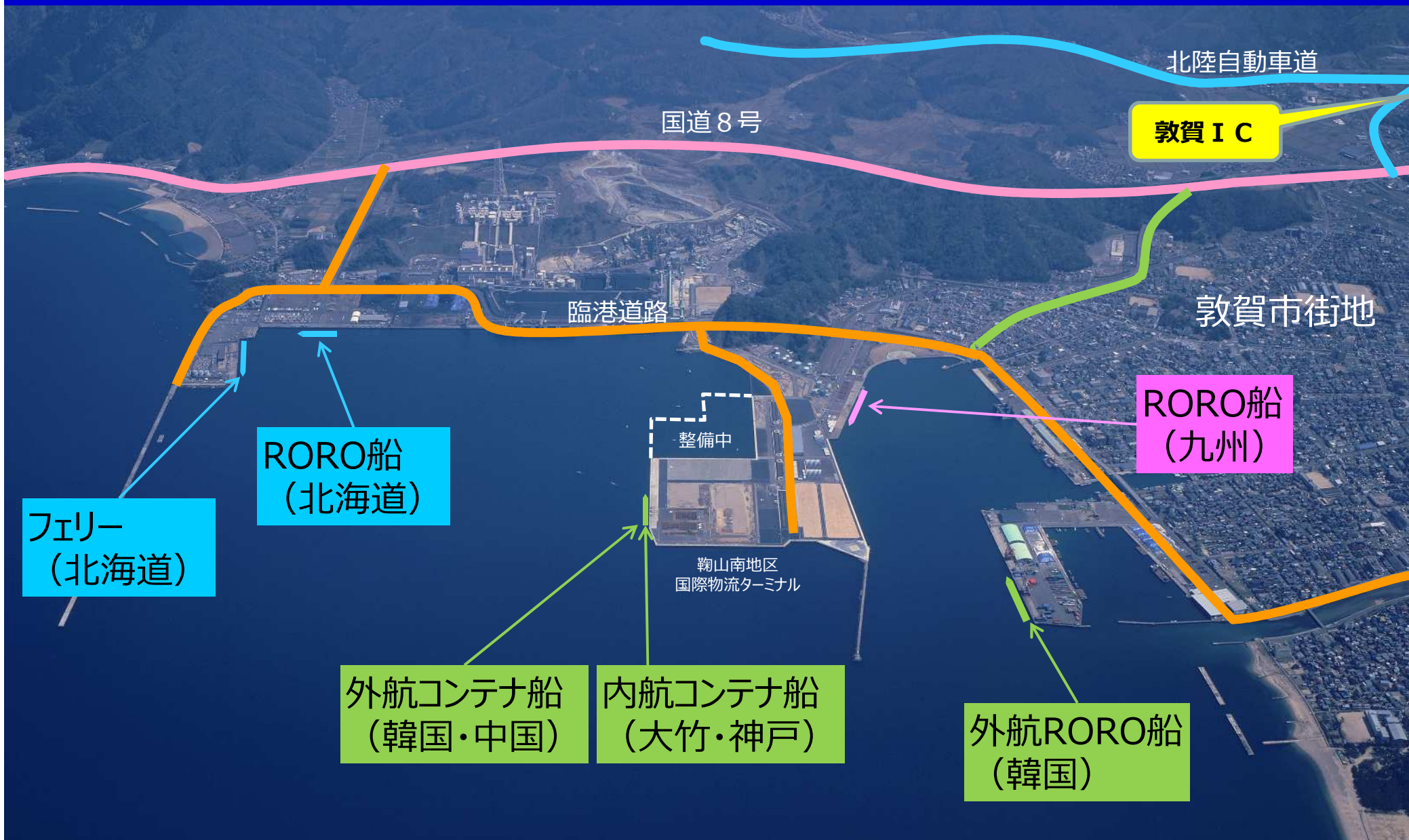




# 敦賀港の主なふ頭



# 敦賀港の主なふ頭（定期航路）





# 鞠山南地区 国際物流ターミナルの整備

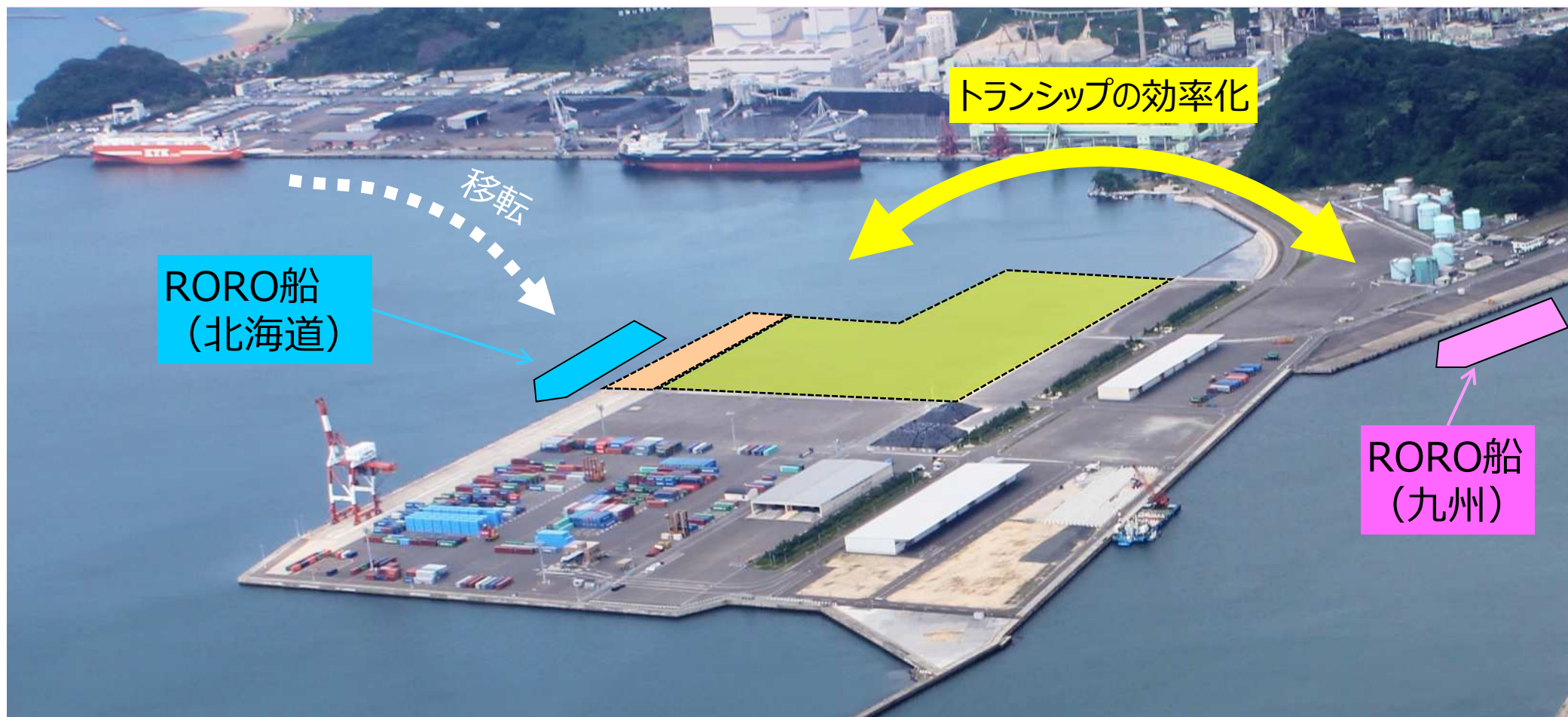


## 事業概要

- 1.4m岸壁 (国事業)  
1.30m延伸  
(岸壁 280m→410m)  
平成29年度～令和3年度

- ふ頭用地 (県事業)  
埋立面積 5.7ha  
(ターミナル 17.6ha→23.3ha)  
平成27年度～令和4年度

# 鞠山南地区 国際物流ターミナルの整備



## 事業概要

- 14m岸壁 (国事業)  
130m延伸  
(岸壁 280m→410m)  
平成29年度～令和3年度

- ふ頭用地 (県事業)  
埋立面積 5.7ha  
(ターミナル 17.6ha→23.3ha)  
平成27年度～令和4年度



# 現 長期構想の概要 (H17.8策定)

## 敦賀港長期構想の基本方針

### 日本海側の“もの・ひと”のゲートウェイ・敦賀港を目指して

#### I. コンテナ航路等海外への玄関口としての国際港づくり

現在整備中である大水深岸壁とふ頭用地を持つ多目的ターミナルを完成させ、地理的優位性を活かした対岸諸国との海上物流ニーズに応え、福井県のみならず、背後圏内の貨物を取り扱う。

- ・ 鞠山南地区大水深岸壁、ふ頭用地（整備中）
- ・ 鞠山防波堤の延伸
- ・ 外貿フェリーの位置付け

#### II. 北海道との物流を主とした

##### 国内海上輸送機能を持つ拠点港づくり

国内定期航路の高い需要に応えるため、広いふ頭用地と、静穏な港内水域等の確保による、安く、早く、安全で信頼性の高い港湾サービスを提供する。

- ・ 鞠山北地区ふ頭用地の確保
- ・ 鞠山防波堤の延伸

#### III. 歴史的みなと資産等を活用した観光・景観に資する

##### “みなとまちづくり”

みなと資産や港湾緑地・水産関連施設等を活用し、隣接する海岸との連携による“みなとまちづくり”を推進する。

- ・ 中心市街地と連携した賑わい空間の形成
- ・ 赤レンガ倉庫、大和田館等歴史的資産の活用
- ・ 定期的なイベントの開催
- ・ 外貿フェリー、旅客船対応施設の整備

#### IV. 災害時の重大事態に対応した

##### 安全で安心できる暮らしを支えるみなとづくり

耐震強化岸壁、物資保管・荷捌き広場、緊急用ヘリポートの確保による災害・事故時の即応体制を構築するとともに、高速高機能巡視艇等公共船舶用係留施設の整備、港湾保安対策の充実による危機管理への対応を図る。さらに小型船の適切な収容を図るため、小型船だまり、小型船収容エリアの確保を図る。

- ・ 鞠山南地区官公庁船係留施設、場外離発着場の整備
- ・ 蓬萊・桜地区耐震強化岸壁の整備
- ・ 保安対策施設の整備
- ・ 川崎・松栄地区物揚場、井の口地区水域の活用